アンケート調査を基にした院内感染対策

○ 野瀬 和彦[1)]　須賀 宏之[2)]　根岸 美恵[3)]　新井 登美子[3)]　泉 知之[4)]
深谷赤十字病院検査部[1)]　同薬剤師[2)]　同感染看護師[3)]　同内科医師[4)]

【はじめに】院内感染対策の基本は標準予防策と感染経路別予防策であり、全職員がこれらを正しく理解し実践する必要があるが、その理解度や実行度がどの程度なのかには疑問があった。そこでＩＣＴ病棟ラウンド時に感染対策についての質問アンケート調査を行い、実態を把握することで予防策の徹底を図る活動を開始したので報告する。

【対象及び方法】対象者は各病棟に勤務している看護師2～3名の計30名とした。質問内容は標準予防策や感染経路別予防策を中心とした、当院ＩＣＴ会議で作製した感染対策チェックリストを用い行った。判定は質問内容の主旨が答えられれば○，曖昧な答えを△，答えられない場合を×とし経験年数ごとに集計した。

【結果】標準予防策の概念や感染性物質の種類，院内に常備してある防護具の種類および使用基準については、経験年数が上がるほど理解度も高かった。手指衛生の方法は全員理解していたが、擦式消毒剤の使用基準の理解度は全体で 70%，経験年数別では経験年数 5年以下は 54%と他の経験年数より低かった。採血時や点滴穿刺時の手袋着用率は全体で27%と低く、経験年数別では5年以下では15%，6～15年で29%，16～25年で38%，26年以上で100%と経験年数が上がるほど高くなった。感染経路別予防策では接触感染や飛沫感染を起こす疾患及び予防策についての理解度は、経験年数が上がるほど高かった。空気感染を起こす疾患の理解度は経験年数による偏りはなく全体的に低く、○が30%，△が37%，×が33%であった。空気感染予防策の理解度は全体で60%，経験年数別では経験年数5年以下が 38%と他の経験年数より低かった。全体的に見ると経験年数が低いほど、理解度や実行度も低い傾向であった。

【まとめ】質問アンケート調査を行うことで予防策の理解度や実行度の実態を把握することができた。理解度や実行度の低かった項目を中心に研修会を繰り返し行うと共に、アンケート結果や改善点などを常時見られるように院内オーダリングシステムの掲示板に表示し、予防策の浸透を図っている。また質問されるという緊張感が学習意欲にも繋がっている。感染対策は現場で働く看護師が最も重要と考え今回は看護師を対象に質問アンケートを実施したが、今後は全職員に対して行うことで病院全体での感染防止策の充実に貢献できるものと思われる。

連絡先：048-571-1511（内線 1877）